

科目名 人間工学 時間割表記名 人間工学		配当時期 1 年次 前期 単位数 1 単位 時間数 30 時間(15回)	講義担当者 西島 衛治
事前学習内容 記憶を固定するためには、繰り返す必要があります。すなわち、事前にシラバスに<u>予定される次の講義内容の部分を教科書で確認することが大切</u>です。講義後の復習も行くと学習効果がでて、記憶が長期的に保持されます。			
授業目標 1. 人間の生活行動や看護活動を物理学的視点で理解できる。 2. 人間の生活や環境の中での安全性、快適性、効率的な看護について理解できる。			
DPとの関連 DP2. 一人ひとりの健康状態に応じて、最善の看護を選択し、科学的根拠に基づいた看護を実践できる。			
授業の流れ			
回	学習内容	方法	備考
1 2 3	1.人間工学ってなに 1)人間工学のあらまし 2)人間工学の応用は幅広い 3)人間とモノ、人間と人間の間を関係を考える 4)人とモノとのかかわり 5)人間と機械とのかかわり 6)人と人とのかかわり 7)看護業務と人間工学 8)看護人間工学とは 9)患者の移動・移動と看護人間工学	講義	テキスト①
4 5 6 7	2.人間のすばらしさと物・人とのかかわり 1)五感のすばらしさを考える 2)手と足の役割を考える 3)看護で発揮できる力について 4)姿勢を考える 5)作業姿勢を考える 6)人と人とのかかわり力作業と腰部負担について 7)人間の能力拡大と人間工学について 8)人間と物との関係を考える 9)人が物を操る能力を考える 10)人が人を操るしごと(看護・介助)	講義	テキスト①

8	3.ポディメカニクスを理解するための力学①	講義	テキスト①
9	1)看護とベクトルの話し 2)テコの原理 3)看護におけるテコの原理応用 4)力のモーメントとトルクの違い 5)力のモーメントの応用 —ドアの開閉の能力と力のバランスについて— 6)力のモーメントの計算で作業負担がわかる 7)人の重心はどのように求めるのか 8)底面重心はいかにして求めるか		
10	4.ポディメカニクスを理解するための力学②	講義	テキスト①
11	1)支持基底面とは 2)支持基底面を広げるいくつかの方法について 3)転倒しにくさと支持基底面と重心の関係について 4)倒れやすさと支持基底面と重心		
12	5.ポディメカニクスを理解するための力学③	講義	テキスト①
	1)睡眠と人間工学 2)健康と人間工学 3)コンピューター作業とテクノストレスについて		
13	6.ポディメカニクスを理解するための力学④	講義	テキスト①
14	1)看護師－物－患者に応用されている看護人間工学 2)用具を用いた看護作業の負担軽減について 3)器機を用いた看護作業の負担軽減について 4)看護技術と人間工学		
15	看護人間工学のまとめ(45 分)	講義	
	筆記試験(45 分)	筆記試験	
受講上の注意 輸液ポンプの取り扱いについては診療の補助技術Ⅰ(2年次)で学ぶ。			評価方法 筆記試験
使用するテキスト：小川紘一 イラストで学ぶ看護人間工学 東京電機大学出版局 参考文献：小原二郎著 新版 暮らしの中の人間工学 実教出版株式会社			